

1. 可児市地域公共交通網形成計画の中間評価にかかる 各アンケート調査の結果等について

1. 中間評価について

令和 5 年度は計画の中間評価として、市民アンケート、利用者アンケートを行い、計画の進捗確認・評価、地域公共交通の課題や市民ニーズなどを整理し、方向性を示していく。
(詳しくは資料 2 を参照)

2. アンケート調査の内容

○市民アンケート調査

地区別人口や年齢構成を基に、15 歳以上の市民 3,000 人を対象
(回答者数 1,279 票 回答率 42.6%)

○バス利用者アンケート調査

(配布数 1,349 票 回答者数 460 票 回答率 34.1%)

・東 鉄 バ ス	配布数 601 票	回答者数 239 票	回答率 39.8%
・さ つ き バ ス	配布数 322 票	回答者数 122 票	回答率 37.9%
・電話で予約バス	配布数 273 票	回答者数 85 票	回答率 31.1%
・K バ ス	配布数 35 票	回答者数 1 票	回答率 2.9%
・Y A O バ ス	配布数 118 票	回答者数 13 票	回答率 11.0%

3. アンケート結果（抜粋）

○公共交通の満足度

「やや満足」「満足」	：	12.2%	(H29 年度比△4.8%)
「やや不満足」「不満足」	：	25.4%	(H29 年度比+2.6%)
「どちらとも言えない」	：	62.4%	(H29 年度比+2.2%)

○コミュニティバスの費用負担の在り方

「現状の公費負担の範囲内で維持」	：	43.9%	(H29 年度比+10.2%)
「公費負担を増やして利便性を向上」	：	28.9%	(H29 年度比+11.9%)
「利便性は下がるが公費負担を減らす」	：	6.7%	(H29 年度比+2.7%)

※H29 は「利用者負担の増」の選択肢があるため、単純比較はできないため比較は参考情報。

2. コミュニティバス・路線バスの整理

1. さつきバス

現状の特徴	・ さつきバスは、新しく利用する人が増えつつある。 ・ 利用者の満足度・不満度は、どちらも約31%と同程度であり、「運行本数」や「運行時間帯」、「案内の分かりやすさ」などに対する要望が多い。
評価できる点	・ 日常生活の足となるだけでなく、小学校の校外授業などでも使用され、認知度は他のバスと比較しても高い。
課 題	・ 運行本数、運行時間帯、運行ルートに対して多くの要望がある。 ・ 乗継の情報が分かりにくく、「乗継」に関する満足度が低い。
方 向 性	・ 可児駅やヨシヅヤ可児を中心として、利便性の高い運行を目指す。 ・ バスの走行位置が確認できるバスロケーションシステムを導入する。
アンケートの声	・ 運行本数が少なく、使いたい時間帯に運行していない。 ・ 乗継が不便で、時刻表も分かりにくい。 など

2. 電話で予約バス

現状の特徴	・利用者アンケートからは「満足」は60%で、「不満」の7.1%を大きく上回っている。
評価できる点	・「運行日」「運賃」「運転手・オペレーターの対応」などで満足度が高い。こうした声は新規ユーザーからも同様の声が聞かれた。
課 題	・「パンフレットの見やすさ」などでは、満足度が低い。 ・「知らなかった」という割合が13.9%あり、さつきバスの4.0%と比較しても高く、周知不足が課題である。
方 向 性	・停留所について、各地区から地域の地区センターに行けたり、市内の病院や歯医者に停留所を設置できるよう調整していく。 ・予約方法について、WEB 予約の導入を検討していく。
アンケートの声	・（免許を返納して初めて利用したが、）使ってみると料金も安く便利だった。 ・（知り合いの高齢者でも、普段タクシーを利用して、）このバスのことを全く知らない人がいる。 など

3. おでかけしよ Kar K バス

現状の特徴	・利用者が少なく、運行目的である観光でのお出掛け手段としての利用はあまりないと考えられる。
評価できる点	・1日乗車券の活用などで、観光・文化施設を巡ることができる。
課 題	・利用者が少なく、利用者1人当たりにかかる輸送コストも他と比べても突出して高い。 ・利用できる範囲が少ない。
方 向 性	・Kバスの運行目的である観光でのお出掛け手段としては、あまり利用されていないと考えられ、当初目的の役目は節目を迎えたとして、存廃などあり方について検討していく。 ・また仮に廃止した場合、利用の多い「ぎふワールド・ローズガーデン」へは、さつきバスで行ける他、ばら祭り期間中は東鉄バスも運行する。他のKバスの停留所は、「電話で予約バス」で対応可能。

4. どうてつ路線バス

現状の特徴	・都市間高速バス、路線バスとともに、減便の影響（利用者の減、運転手不足の減等）もあり、利用者が少なくなっている。
評価できる点	・運転手不足による減便がある一方、路線を維持できている。
課 題	・さつきバスと比較すると、料金が割高に感じる人がいる。 ・運行本数の増加をはじめとした「公費負担を増やしても利便性を向上させるべき」という声が多い。
方 向 性	・さつきバスと同一料金体系として、さつきバスへの乗継の利便性を向上を目指す。
アンケートの声	・（路線の大幅な減便もあり）便数を増やしてほしい。 ・料金を下げてほしい。 など

5. Y A O バス	
現状の特徴	・ 高校生の通学手段として、また兼山地域の交通手段として利用されている。「往復での利用」の割合が、他のバスと比べて高い。
評価できる点	・ 3市町共同による運行で、路線を維持できている。
方 向 性	・ 名鉄広見線の今後の動向に注視していく必要がある。 ・ Y A Oバスの動向により、さつきバス兼山線とのあり方についても検討する。

6. 鉄道（JR 太多線・名鉄広見線）	
現状の特徴	・ J R 太多線、名鉄広見線とも利用割合が減少している。 J R 太多線の場合、沿線の姫治地区においても減少している。 名鉄広見線の場合も同様、沿線上の今渡地区や帷子地区でも減少している。 ・ 特に「年に数日程度」や「月に 1 回」などのライトユーザーの利用率が減少しており、コロナ禍による影響が大きく受けている。 ・ 利用目的としては、「観光・レクリエーション」「飲食・趣味・娯楽」の割合が最も高い。
方 向 性	・ 都市部への交通手段として、公共交通の軸となる鉄道路線は維持・確保していく。

3. 可児市地域公共交通の方向性【概要】

○既存の公共交通を維持し、それぞれの機能をブラッシュアップ

市内の公共交通としては、鉄道・路線バス・タクシー・コミュニティバスにより交通空白はないものの、各バスをはじめとした公共交通への要望は多い。

⇒要望・改善案については、継続検討していく。

○コミュニティバスの周知・広報（特に「電話で予約バス」の認知度が低い）

ex.75 歳以上の高齢者に配布する「あんきクラブ」にチラシを同封。

ex.ポケット時刻表などの作成。

○コミュニティバスの利活用促進

ex.バスを活用したイベント（さつきバスで巡る〇〇ツアー等）

○高齢者の移動支援

ex.「道路運送法における登録・許可を要しない運送」などにより、地域による共助を支援
（R6 年度は車の貸与などを実施予定 高齢福祉課）